

事業所名

ほがらかファミリー音羽(児童発達支援)

支援プログラム

作成日

2024年

12月

20日

法人(事業所)理念		「子どもが元気な社会」をつくります」								
支援方針		体を動かす遊びを通じて、自ら楽しむ力を培います。 ・職員がきめ細かく関わります。 ・地域に密着した事業所として、地域の皆様と関わります。 ・家族同士で交流できるイベントを行います。								
営業時間		8時	30分	から	17時	30分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支援内容										
本人支援	健康・生活	・手洗いや靴・靴下の着脱など、大人と一緒に自分の身の回りのことをする。排泄は、本人の発達段階に応じて無理の無いように誘ったり、自発的にトイレに行くのを待ち支援する。 ・クッキング等の療育を行い、みんなで楽しく食事をする時間を作る。 ・職員は、本人が自分でやろうとする意欲が高まるような声掛けをし、難しい部分は最低限の手助けをする。								
	運動・感覚	・マット・鉄棒・トランポリンなどの遊具を組み合わせた設定に自発的に取り組んだり、戸外で伸び伸びと身体を動かして遊ぶなど、バラエティに富んだ粗大遊びを楽しむ。体を出来るだけ大きく使って遊ぶ「感覚統合」の時間を持つ。 ・職員は、本人発信の遊びの中でダイナミックな動きが出るような遊びを仕掛け、楽しく体が動かせるようにする。本人の「やりたい気持ち」を盛り上げる。								
	認知・行動	・自分で自由に遊具や玩具を手にとることが出来る環境の中で、自分が選んだ玩具・遊具を使って、アイデアや工夫を出しながら様々な遊びをする。 ・職員は、本人が選ぶ遊具で、楽しい遊び方を徐々に増やして広げていく。自分のアイデアが上手くいったという実感が持てるようにする。								
	言語コミュニケーション	・自分がしたい遊びを大人や友達といっぱい楽しみ、大人の働きかけに応じてながら、言葉や仕草でのやり取りをする。 ・職員は、本人からの要求・発信に応じて楽しく遊び、「発信したら楽しいことが起こる」「もっと発信したい」と感じられるように大いに遊びを盛り上げたり印象付けたりする。								
	人間関係社会性	・自分がしたい遊びをスタッフや友達といっぱい楽しみ、「人と関わる楽しさ」を味わえるような時間を持つ。 ・友達の言葉や気持ちに意識が向けられるように、職員自身が本人と友達の両者に働きかけて楽しい時間を共有できるように工夫する。								
家族支援		・保護者の要望に応じ、またはこちらから意向をお尋ねして、事業所内相談時間を持つ。本人の自発性を大切にしながら、本人の思いと家族の思いの折り合いをつけるポイントについてお伝えする。 ・保護者に支援場面に参加・観察してもらい、子どもの特性を踏まえた関わり方等に関して相談援助をする。				移行支援		・本人の行動特性や事業所での支援内容等について、また園での支援内容について、園や就学先と共有する。 ・必要に応じて園や学校と連絡を取り訪問するなどして、日々の様子を情報共有する。様々な場面での具体的な関わり方など、お互いに伝えあう。 ・保護者の意向も確認しながら三者で連携を図る点に留意する。		
地域支援・地域連携		・関係機関で役割分担を担うと共に、それぞれの機関で得られた情報を共有し、日常生活や支援に活用するための具体策を提案し合う。 ・みんなで子どもを育てるという思いを大切にした連携を心掛ける。				職員の質の向上		・毎月1回、作業療法士が療育に入り、その後「子どもとの関わり」や「保護者支援」等について事業所内研修を行う。また、その他にも幅広く事業所内研修を行っている。 ・「遊び」「個別支援計画作成」「防災」「子どもの発達」など、様々なテーマの外部研修に参加している。		
主な行事等		・「子ども祭り」「川遊び」「芋ほり」「焼いも」「マラソン大会」「餅つき」「豆まき」など、季節感や伝統文化に因んだ行事を行っている。地域の人たちの協力を得ながら、親子で楽しんでもらうことを大切にしている。 ・「保護者交流会」「フォーラム」など、保護者同士の交流や、事業所の思いや取り組みを保護者に知ってもらえるようなイベントを行っている。								